

31 株式会社堀尾製作所



代 表 者 名 代表取締役 堀尾 正彦
設立年月日 昭和43年10月1日
所 在 地 [本社] 〒987-1103宮城県石巻市北村字高谷地一21-2
TEL.0225-73-2488/FAX.0225-73-3271
U R L <http://www.horioss.co.jp>
資 本 金 2000万円
従 業 員 数 53人
職 種 製造業
事 業 内 容 精密亜鉛ダイカスト部品メーカーとして多くの種類の部品を製造。精密部品製造では世界でも高いシェアを持つ。

生産管理の高度化を実現し、工程ロスとミスを防止 生産余力を作ることで新規開拓と技術開発にも注力

テーマ

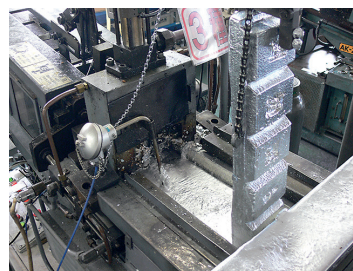
バーコードシステム導入による生産管理の高度化と 多品種少量生産および短納期化実現事業

バーコードシステムの導入による工程管理のデータ化によって一元管理し、課題抽出時間の短縮を図り、迅速な改善着手を行うことで作業工程上のロスを解消。さらには、部品の混同や誤認など人為的ミスも未然に防ぐ。

事業の内容

事業取り組みの経緯

当社では自動車関連部品を中心にさまざまな精密亜鉛ダイカスト製品を製造している。その数は400種類以上にのぼり、製品の在庫管理、製造管理は煩雑なものになっていた。以前からデータ管理による「見える化」の必要性を感じていたが、製品数の多さからシステム導入に当たっては大幅な改変が避けられず、費用も高額となってしまうため手が出せなかった。そこで今回、補助事業の採択により、データの「見える化」を実施した。



実施内容

まずは現状の生産管理の問題点、課題抽出を行うべく、工程調査と部品番号および工程マスターデータを作成。システム運用に向けて部番および工程マスターのデータ登録を行った。次に全工程にバーコードを読み込むためのハンディーターミナルを設置し、シミュレーションを実施。各工程での動作は部品確認シート進捗表をハンディーターミナルで読み込むだけとすることで、工程スタッフの管理業務をスムーズにすることを目指した。その結果をもとに、システム制作会社と協議と改良を重ね、バーコードシステム運用の最適化を図った。



成 果

バーコードシステムを導入後は、各部品ごと、工程ごとの在庫をリアルタイムで確認することができるため、加工から出荷までの工程間の数量確認が可能となった。不良部品が発生した際も、リアルタイムで全体数量が把握できているため、すぐに適正在庫数に合わせることもできるようになった。

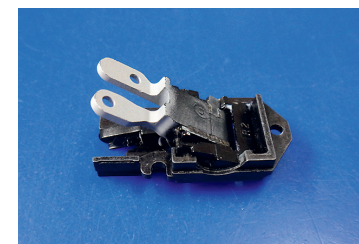
製造する部品すべての生産数、在庫数を「見える化」することによって生産数を調整することが簡単になり、無駄な在庫や無駄な生産を防ぐこともできるようになるなど、生産効率・生産管理は大幅に向上した。また、生産に余力が生じることで新たな生産も可能となり、さらなる売り上げ向上の可能性も広がった。



今後の展望

従来は、中国に2つの工場を構えることで低価格大量生産を求める顧客ニーズに対応し、一方で品質を重視する部品については本社工場で生産するという体制をとってきた。しかし、顧客ニーズが多様化し、また商品サイクルが短くなっている昨今、ますます多品種小ロット、短納期での生産が要求されると考えられる。このようなニーズに応えるためには、生産管理の高度化が必要不可欠となるが、本事業でオリジナル生産管理システムを構築したことにより、その体制を整えることができた。今後はこのシステムを活用し、管理だけでなく、品質向上にも注力していく。

また、生産に余力ができたことで、これまで以上に技術開発へ力を入れることも可能となった。大学やさまざまな研究室などと協力開発しながら、新しい市場開拓も視野に入れた営業展開をも目指したい。



株式会社堀尾製作所
代表取締役 堀尾 正彦 氏

応募のきっかけ

事業の発展には、まず現状の生産体制の効率化が第一と考えていました。そのためにはバーコードシステムの導入は願望でしたが、膨大な労力と費用が掛かってしまうので着手することができませんでした。新たな設備投資は企業にとっては大変なことです。日頃から補助事業や支援事業の情報を集めていましたが、今回の採択は大変ありがたかったですね。

ひと言メッセージ

当社では、高精度が求められるDVDレコーダー光ピックアップ部品を亜鉛ダイカストの高精度鑄造技術によって実現したことで世界シェア30%を達成しています。また、従来の2倍の強度を持つ亜鉛ダイカストを開発するなど、常に独自の技術力で勝負してきました。今回の事業によって生産管理の高度化も実現しましたので、さらに多くのこと挑戦し、今後も「とんがった会社」であり続けたいと思います。